

これからの治療・ケアに関する話し合い (アドバンス・ケア・プランニング)

これからの治療やケアについて 話し合うことが大切な理由

- 「もしものこと」を考えたことがありますか？
- 人はみな、いつでも、命にかかわるような大きな病気やケガをする可能性があります
- 命の危険が迫った状態になるとまわりに自分の考えを伝えることができなくなることがあります。具体的には約4分の3の人が、これからの治療やケアについて自分で決めたり伝えたりするのが難しくなります
- 治療やケアに関する考えを、あなたの大切な人と話し合っておくことで、もしもの時に、あなたの考えに沿った治療やケアを受けることができるようになります

- これらの話し合いを、アドバンス・ケア・プランニングといたします

これからの治療・ケアに関する話し合い アドバンス・ケア・プランニング

- 万が一のときに備えて、あなたの大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自分自身で考えたり、あなたの信頼する人たちと話し合ったりすること
- 話し合いは、もしもの時にあなたの信頼する人があなたの代わりに治療やケアについて難しい決断をする場合に重要な助けとなります

調査の結果から

(厚生労働省人生の最終段階における医療に関する意識調査2018年)

- 3%の人が人生の最終段階の治療やケアについて家族と詳しく話し合った事がある
- 66%の人が予め 自分の治療やケアについての希望を書面に記載しておくことについて賛成
- 8%の人が実際に自分治療やケアについての希望を書面に記載していた

話し合いにより大きな変化が起こる可能性

これからの治療・ケアに関する話し合い もしも、のときについて考えてみよう

- もしもの時の治療やケアについて、どのように決めていったらよいかを、何人かの方の体験を見てみましょう
- 自分ならどんな治療・ケアを受けたいのか具体的に考えて行こうと思います

ある日…

00:00:00:00



その後…

00:00:00:00



これからの治療・ケアに関する話し合い

5つのステップ

ステップ 1 : 考えてみましょう

**ステップ 2 : 信頼できる人が誰かを考えて
みましょう**

ステップ 3 : 主治医に質問してみましょう

ステップ 4 : 話し合いましょう

ステップ 5 : 伝えましょう

これからの治療・ケアに関する話し合い

5つのステップ

ステップ 1 : 考えてみましょう

ステップ 2 : 信頼できる人が誰かを考えて
みましょう

ステップ 3 : 主治医に質問してみましょう

ステップ 4 : 話し合いましょう

ステップ 5 : 伝えましょう

1. 考えてみましょう：あなたにとって最も大切なことは何ですか？

1.もし生きることができるとしてあなたが限られているとしたらあなたにとって大切な事はどんなことですか？

- 家族や友人
- 仕事や社会的な役割
- 身の周りのことが自分でできること
- できる限りの治療が受けられること
- 家族の負担にならないこと
- 趣味
- ひとりの時間が持てること
- 経済的なこと
- その他

家族が大切

00:00:00:00



仕事が大切

00:00:00:00



自立した生き方をすることが大切

00:00:00:00



家族の負担にならないことが大切

00:00:00:00



1.もし生きることができるとしてあなたが限られているとしたらあなたにとって大切な事はどんなことですか？

- 家族や友人
- 仕事や社会的な役割
- 身の周りのことが自分でできること
- できる限りの治療が受けられること
- 家族の負担にならないこと
- 趣味
- ひとりの時間が持てること
- 経済的なこと
- その他

2. 重体や危篤になった経験、親しい方を亡くした経験はありますか？

- 今までの自分の体験を振り返ってみましょう
 - 自分自身、家族や友人、テレビやドラマの場面
 - 「こんな最期だったらいいな、こんな治療やケアを受けたいな」と感じたことはどんなことですか？
 - 「こんな最期は嫌だな、こんな治療やケアは嫌だな」と感じたことはどんなことですか？
- 考えてみましょう
 - 今後もし同じような状況になったとしたらのような治療やケアを受けたいですか？

3. 欠かせない機能

- あなたにとってとても大切で、「これができないまま生きていくのは考えられない」、と思うのはどんなことですか？
 - ご自由にお書き下さい
- 例を挙げると以下のようなものがあります
- 大切な人に自分の気持ちや考えを伝えられない
 - 身の回りのことが自分でできない
 - 食べたり飲んだりすることができない

4. 前の質問で考えた「大切なこと」ができなくなり、元に戻らないとしたら・・・

- もし、そのような状態になったらどう過ごしたいか、ひとつチェックして下さい
 - ① 必要な治療やケアを受けてできるだけ長く生きたい
 - ② ①より命が短くなる可能性はあるが、治療やケアは受けたくない
 - ③ わからない

–なぜそう考えたか理由を書いてみましょう

これからの治療・ケアに関する話し合い

5つのステップ

ステップ 1 : 考えてみましょう

**ステップ 2 : 信頼できる人が誰かを考えて
みましょう**

ステップ 3 : 主治医に質問してみましょう

ステップ 4 : 話し合いましょう

ステップ 5 : 伝えましょう

2.信頼できる人が誰か考えてみましょう
しょう：あなたが信頼していて、いざという時に、あなたの代理として受ける医療やケアなどについて話し合っ
て欲しい人（ここでは代理決定者と呼びます）

代理決定者を決めましょう

- 代理決定者とはどんな人でしょう
 - あなたが信頼していて、あなた自身の事をよく理解してくれている人で、病状などによりあなたが考えや気持ちを伝えられなくなった時に、あなたの代わりに受ける医療・ケアについて相談し話し合う人
- 代理決定者は何をするか
 - どのような治療やケアを受けるかを話し合う
 - どこで治療やケアを受けるかを話し合う
- なぜ決めておく必要があるのでしょうか
 - あなたの価値観、考えを共有しておくため
 - あなたの治療やケアに対する考えを伝えておくため
 - あなたの考えや好みが尊重される
 - 代理決定者の負担が軽くなる

代理決定者を決める

—このような人が考えられます—

- 配偶者（夫、妻）
- 子ども
- きょうだい
- 親戚（姪・甥など）
- 友人・知人
- 頼める人がいない

代理決定者を決める —配偶者を選んだ人の場合—

00:00:00:00



代理決定者を決める

—配偶者を選んだ人の場合—



長い間一緒にすごしてきた
いい時も悪い時のことも自分のことを
一番よく知っている妻に任せようと思う

息子もいるけれど、まだ子どもも小さくて
私のことまで頼めないなので
夫に全てお願いしてあります



代理決定者を決める —子どもを選んだ人の場合—

00:00:00:00



代理決定者を決める

—子どもを選んだ人の場合—



長女は私と性格が似ていて
いざというときにも私の考えに近い
判断をしてくれると思う

長男はこういうことは決断できない
優しい性格なので頼むのは酷だと思う。
次男はきっぱり決断できる性格だから
次男に頼むことにした



代理決定者を決める — 親戚を選んだ場合 —

00:00:00:00



代理決定者を決める

— 親戚を選んだ場合 —



夫は若くして亡くなり、
兄とは小さいときから仲が良くて、
色々わかってきていると思うから

姉夫婦が近くに住んでいて、何かと面倒を
見てくれる。子どももなついていて。
妻とは別れたんです。



代理決定者を決める —友人・知人を選んだ人の場合—

00:00:00:00



代理決定者を決める

—友人・知人を選んだ人の場合—



妻は病気療養中で頼れない。
古くからの友人が元医療従事者で
何かと気にかけてくれているし
こういう判断はお願いしやすいから

遠くの親戚より近くの他人っていうでしょ
いつも私のことを気にかけてくれている
近所の友人がいざという時にも
一番頼りになると思うから



代理決定者を決める —頼める人がいない場合—

00:00:00:00



代理決定者を決める

—頼める人がいない場合—



夫も子どももいないし、頼める人はいない
私の希望は、書面に書き残して
誰にでもわかるようにしておくので
それをもとに医師に判断してもらえればいい

頼める人も、頼みたい人もいない
成り行きまかせで、その場にいる人たちに
決めてもらえればそれでいい
誰も恨まない



代理決定者を決める

もしもあなたが病状などにより、自分が考えや気持ちを伝えられなくなった時や、あなたが治療などについて決められなくなった時に、あなたの代わりに治療やケアについて話し合う「代理決定者」はどなたになりますか？

- お名前を記入してください（複数でも可）
- なぜその方をお願いしたいのでしょうか？お書き下さい



代理決定者を決める

- あなたが代理決定者になってほしいと
思っていることを、ご本人に直接伝えて
いますか？あてはまる方を選んで下さい
 - 伝えている
 - 伝えていない
- もしまだ伝えていない
ならば理由を含め伝えて
みましょう



**代理決定者になってもらうことを
どう依頼したか？**

代理決定者の依頼：配偶者

00:00:00:00



代理決定者の依頼：子ども

00:00:00:00



代理決定者の依頼：親戚



代理決定者の依頼：友人

00:00:00:00



これからの治療・ケアに関する話し合い

5つのステップ

ステップ 1 : 考えてみましょう

ステップ 2 : 信頼できる人が誰かを考えて
みましょう

ステップ 3 : 主治医に質問してみましよう

ステップ 4 : 話し合いましよう

ステップ 5 : 伝えましよう

3. 主治医に質問してみましよう

- ①病名や病状、予想される今後の経過
- ②必要な治療やケアについて代理決定者と一緒に主治医に尋ねてみましよう

現在病気療養中でない方はこの項目は省略して下さい

病名・病状を知っていますか

これからの治療・ケアについて考えるために

- **あなたのご自身の病名・病状を知っていますか**

これからの治療やケアについて考えるためには病状を知っている必要があります。あなたのご自身のご自分の病名や病状、これからの予測される経過や、受けるであろう具体的な治療やケアなどについて医師から説明を受けましたか？

- はい
- いいえ

- もし、更に知っておきたいと思う情報があれば以下に書いてみましょう。そして、次の機会に医療従事者に尋ねてみましょう。

患者が主治医から 聞くことができる治療やケアのこと

- 治療やケアの利益（メリット）
- 治療やケアの不利益（デメリットやリスク）
- 他の治療やケアの方法
- 治療やケアによってあなたの生活にどんな影響があるか
- 病気の予想される経過
- 治ることが難しい場合、予想される余命

病気の予想される経過や、余命 (あとどれくらい生きられると予測されるか) を知りたいですか？

- 知りたい
- 知りたくない
- わからない
- その他（具体的にお書き下さい）

上記のように考えた理由をかいてみましょう

これからの治療・ケアに関する話し合い

5つのステップ

ステップ 1 : 考えてみましょう

ステップ 2 : 信頼できる人が誰かを考えて
みましょう

ステップ 3 : 主治医に質問してみましょう

ステップ 4 : 話し合いましょう

ステップ 5 : 伝えましょう

4. 話し合みましょう：

もしあなたが、治癒が不可能な病気（進行がん、慢性心不全など）にかかり、病状の悪化などにより、十分に考えたり、周囲の人に自分の考えを伝えられなくなった場合にどんな治療やケアを受けたいか、どこで治療やケアを受けたいかについて代理決定者とともに考えていきます

病状の悪化などにより自分の考えを伝えられなくなった場合、どのような治療を望みますか？

- 延命を最も重視した治療：心肺蘇生、気管挿管、人工呼吸器の使用や、集中治療室での治療など、心身に大きな負担がある処置であっても、できる限り長く生きることを重視した治療を受ける
- 延命効果を伴った基本的、一般的な内科治療：集中治療室への入院や心肺蘇生、気管挿管、人工呼吸器の使用等の、心身に大きなつらさを伴う処理までは希望しないが、その上で少しでも長く生きるための治療を受ける
- 快適さを重視した治療：治療による延命効果を期待するよりも、できる限り苦痛の緩和や快適な暮らし（自分らしい生活）を大切にしたい治療を受ける
 - ✓ 苦痛な症状についてはどの治療を選んでもできる限りの症状緩和のための治療やケアが行われます

延命を最も重視した治療 を選んだ理由



少しでも長く生きていれば、
新しい治療法ができるかもしれない
可能性がある限り諦めたくない

子どもがまだ成人していないから
できるだけ長く側にいて成長を見ていたい
つらくても、今は長く生きることを優先する



延命を最も重視した治療 を選んだ理由

00:00:00:00



延命効果を伴った基本的、 一般的内科治療を選んだ理由



まだやり残したことがあるし、無理のない範囲で治療は受けたい。でも機械につながれたり、管だらけになるのはいやだ

回復の可能性がゼロではないんだったら、治療は受けたい。でも、つらい思いをするのはまっぴら



延命効果を伴った基本的、 一般的内科治療を選んだ理由

00:00:00:00



快適さを重視した治療を選んだ理由



十分に自分の人生を生きてきた
長い期間治療を受けてきて、色々な経験をした
つらい治療や管をつけた生活は嫌だ
できるならば、静かに家で過ごしたい

話をすることや食べることが一番の楽しみ
それができない状態で生きていくなんて
私には考えられない
最期まで家族や友人と穏やかに過ごしたい



□快適さを重視した治療を選んだ理由



病状の悪化などにより自分の考えを伝えられなくなった場合、どのような治療を望みますか？

- 延命を最も重視した治療
 - 延命効果を伴った基本的、一般的内科治療
 - 快適さを重視した治療
- ✓ 苦痛な症状についてはどの治療を選んでもできる限りの症状緩和のための治療やケアが行われます

あなたの考えはどれに近いですか？選んだ理由を考えてみましょう

病状の悪化などにより、自分の考えを伝えられなくなった場合を考えてみましょう

- そのような場合にしてほしい治療やケアにはどのようなものがありますか？具体的に考えてみましょう。
 - その理由も合わせて書いてみましょう（例：ごはんはできるだけ口から食べたい、トイレは自分で行きたい、など）
- そのような場合にほしくない治療やケアにはどのようなものがありますか？具体的に考えてみましょう。
 - その理由も合わせて書いてみましょう（例：下の世話はされたくない、入院するのはいやだ、など）

病状の悪化などにより、自分の考えが
伝えられなくなった場合、
どこで治療やケアを受けたいですか？
以下の3つから選んで下さい

- 病院
- 自宅
- 施設
- それ以外（具体的にお書き下さい）

その場所を選んだ理由を書いてみましょう

これからの治療・ケアに関する話し合い

5つのステップ

ステップ 1 : 考えてみましょう

ステップ 2 : 信頼できる人が誰かを考えて
みましょう

ステップ 3 : 主治医に質問してみましょう

ステップ 4 : 話し合いましょう

ステップ 5 : 伝えましょう

5.伝えましょう：

もしもの時に、あなたの大切な人
（代理決定者）にどれくらい任せ
るかについて

病状が悪化し、自分の考えが伝えられなくなった時に、あなたの考えとあなたの大切な人（代理決定者）の考えが違う時にどうしてほしいですか？

意思の柔軟性

00:00:00:00



意思の柔軟性

00:00:00:00



病状が悪化し、自分の考えが伝えられなくなった時に、あなたの考えとあなたの大切な人（代理決定者）の考えが違う時にどうしてほしいですか？

- 以下の4つから選んで下さい
 - 私の望んでいたとおりにしてほしい
 - 私の希望を基本として、医療福祉従事者と代理決定者で相談して決めてほしい
 - 私の希望と違っても、医療福祉従事者と代理決定者で相談して決めてよい
 - どちらともいえない

代理決定者と話すだけでは 十分ではありません

- 代理決定者以外の家族や知人、医療従事者（意思や看護師など）などにもあなたの希望や考えを伝えておきましょう、あなたの希望が尊重されやすくなります
- 医療従事者に希望を伝えたあとでもいつでも内容は訂正することができます
 - 病状が変化したときなど定期的に考えを整理して、話し合っておきましょう